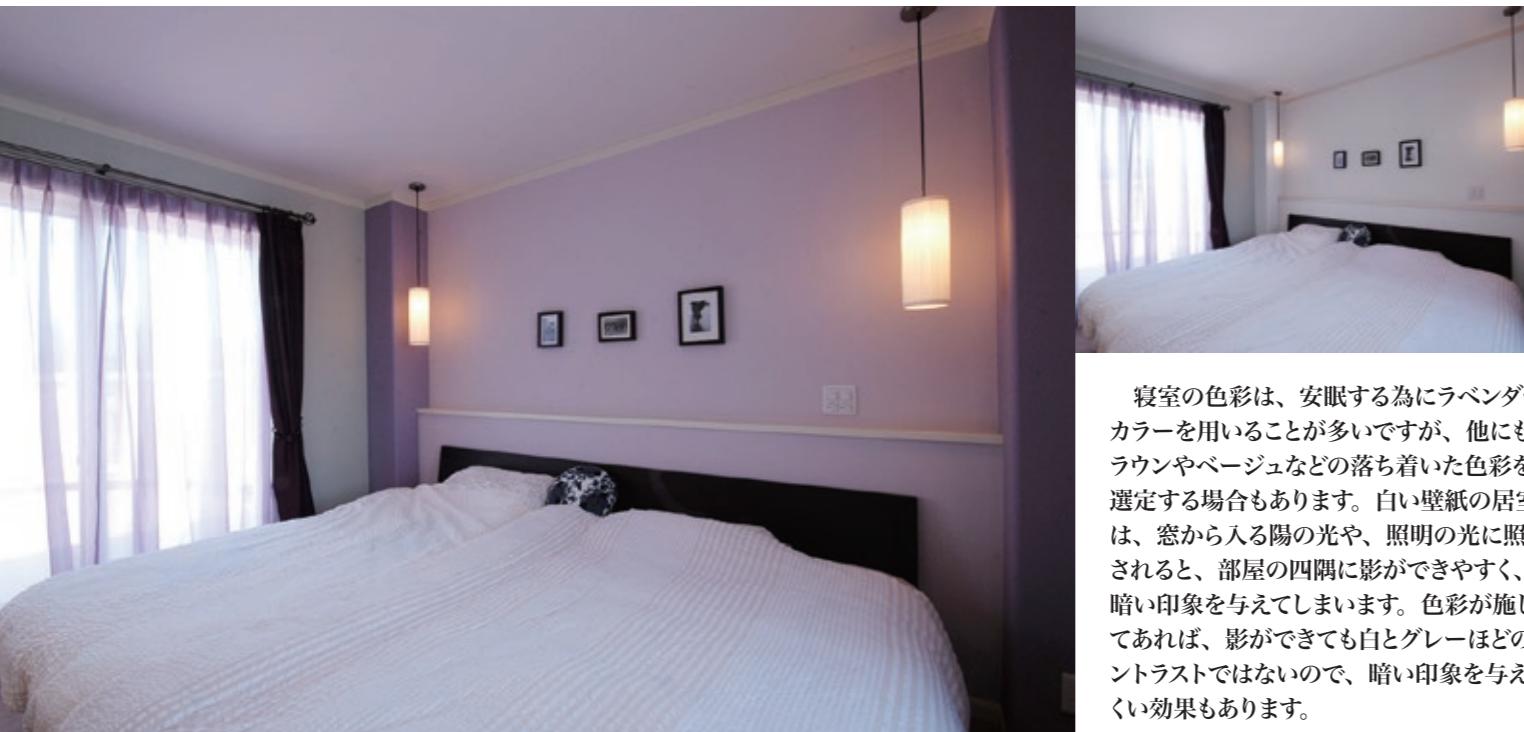


オレンジ色にはエネルギーを高めてくれる働きがあり、リビングに用いることで、そこに集う人々の活力を高められます。彩度の高い色彩をアクセントカラーに用いる場合、ベースカラーは同系色の薄めの色彩にすることで、空間の色彩バランスを取ることが可能です。



寝室の色彩は、安眠する為にラベンダー色を用いることが多いですが、他にもブラウンやベージュなどの落ち着いた色彩を選定する場合もあります。白い壁紙の居室は、窓から入る陽の光や、照明の光に照らされると、部屋の四隅に影ができやすく、暗い印象を与えててしまいます。色彩が施してあれば、影ができる白とグレーほどのコントラストではないので、暗い印象を与えてくれる効果もあります。

洗面所などの水廻りに用いる色彩は、寒さを感じさせないような暖色系の色彩が適しています。彩度が高く発色の良いアクセントカラーの場合、写真のように貼る面積が小さくても、空間の印象を大きく変えることが可能です。天井に用いる色彩は、濃い色だと圧迫感を感じることと、天井照明の光が当たらず影ができるので、壁に用いるベースカラーよりも若干明るい色彩を選定すると、色彩のバランスが取れるでしょう。

また、浴室や洗面脱衣室の照明を少し暗くすることで、雰囲気のある空間を演出することができます。脳や筋肉を弛緩させリラックスできる空間デザインを心がけないと良いでしょう。



Feng-Shui Gallery

special edition vol.85

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『色彩情報のある空間』
～アクセントカラーとベースカラー～



リビングには、リラックスできる寛ぎと、家族団欒に適した色彩の選定が大切です。白い壁は、寒々しい印象を与え、緊張する空間になってしまふ為、写真のような温もりを感じさせてくれる暖色系のベースカラーと、癒しを感じさせてくれるグリーンのアクセントカラーを組み合わせると良いでしょう。



風水デザインでは、基本的に壁や天井の色に「白」を使用しません。白には色彩情報が無く、イライラしたり集中力を欠く原因になると考えられているからです。居室内をアクセントカラーとベースカラーで彩ることで、その色彩情報が脳に刺激を与え、心身に良い影響を与えます。